



第4回 がん三次元培養研究会 「患者由来がん三次元培養がもたらす医療へのブレイクスルー」

会 期：令和4年11月28日（月）13:10～17:50
会 場：国立がん研究センター 新研究棟1階 大会議室
後 援：国立がん研究センター研究所・金沢大学がん進展制御研究所

プログラム

受付開始(12:20) 国立がん研究センター・新研究棟 1F

開会の辞 間野 博行 (国立がん研究センター研究所・研究所長)

研究会趣旨 岡本 康司 (組織委員長、帝京大学先端総合研究機構)

セッション1 三次元培養を通じた多様性解析と治療戦略

- 井上 正宏 (京都大学大学院 医学研究科)
「がん幹細胞の多様性と可塑性」
関根 圭輔 (国立がん研究センター研究所)
「がん三次元培養モデルを用いた膵癌組織細胞間相互作用の解明」
井上 聡 (東京都健康長寿医療センター研究所)
「泌尿器がんの三次元スフェロイド培養とその応用」

セッション2 婦人科領域がんの三次元培養

- 林 寛敦 (東京大学定量生命科学研究所)
「1細胞発現解析による卵巣がんの多様性の理解」
森 裕太郎 (国立がん研究センター研究所)
「凍結臨床検体を用いた1細胞核解析と空間的トランスクリプトームの統合による卵巣明細胞腺がんの治療抵抗性の理解」
星野 大輔 (神奈川県立がんセンター臨床研究所)
「2元培養とスフェロイド培養の放射線感受性比較」

セッション3 乳がんの三次元培養

- 丸山 玲緒 (がん研究会がん研究所)
「乳がん患者由来オルガノイドの樹立・解析と乳がんの多様性の評価の試み」
後藤 典子 (金沢大学がん進展制御研究所)
「トリプルネガティブタイプ乳がん臨床検体のスフェロイド培養から明らかになってきた”親玉がん幹細胞”」

閉会の辞 青木 一教 (国立がん研究センター研究所・副所長)